

崩壊熱評価ワーキンググループ議事録

- 開催日時： 平成2年8月27日 14:00 ~ 17:00 (原研本部)
- 出席者： 中嶋(法大), 田坂(名大), 飯島, 吉田(東芝), 片倉(原研)
加藤(オブザーバー, 名大)
- 配布資料： a. 前回議事録(吉田委員)
b. ANS Winter Meeting 予稿(片倉委員)
c. 代表的な崩壊熱スタンダードの相互比較(吉田委員)
d. 崩壊熱推奨値の不確かさ評価(飯島委員)

議事：

I. 報告事項

(1) 第二版の総合報告(JAERI-レポート)の査読が終わり、9月には刊行されるとの報告が片倉委員よりあった。

(2) 資料に基づき、Washingtonで開かれる、今年のANS Winter Meetingで発表される2件の招待論文(Schenter-England-片倉、Dickens)の内容が片倉委員より報告された。

II. 討議事項：

(1) 代表的な崩壊熱スタンダードの相互比較

資料c.に基づき、JNDC、ANS 5.1、ISOの三つの崩壊熱スタンダード(乃至は推奨値)による典型的な燃焼条件下での崩壊熱の相互比較が吉田委員より報告され、内容的な議論をおこなった。三つの値は極端に違う訳では無いが、JNDCが一番低い値を与えている。

(2) 崩壊熱計算の拡張と刊行について

米国より入手した ENDF/B-VIの核分裂収率データが、井原委員によって整理・ファイル化されている。今後、高燃焼化対応、TRU消滅処理に関連して、広範なTRUの崩壊熱データの需要が見込まれるので、この収率データを用いて崩壊熱を計算し、レポートに纏めておくこととなった。原研と名大グループが中心になる。

(3) 上記(2)に併せて、遅発中性子、 α 線スペクトル、 (α, n) 中性子データも記載しておくど有用であるとの意見が出た。

(4) 今後、アクチナイドは勿論、FP崩壊データにもX線データをいれてゆくよう極力努力すべだとの意見が中嶋委員からあり、賛同された。

Ⅲ. Action List

- a. 加藤先生のWG正式参加の手続きを取る → 片倉委員
- b. 次回のWG会合は早大グループにも参加してもらい遅発中性子の炉物理的側面やデータの現状をレビューする → 吉田委員
- c. 学会報告書supplementをHEDL, LANL, ORNL, ISOに送付する → 片倉委員
- d. 上記supplementの英訳、JAERI-M レポート化取纏め → 田坂、飯島委員
- e. 端慶覧委員のFORTRAN コードJAERI-M レポート化依頼 → 吉田委員
- f. JEDNL-3 にFP崩壊データを入れる件、中川さんと話合う → 片倉委員 ()